

# 青森県子どもの生活実態調査 結果報告書

平成 31 年 4 月  
青 森 県



# 目 次

1. 調査概要.....	1
(1) 調査の概要について.....	1
(2) 生活困難度について.....	1
(3) 報告書の読み方について.....	4
2. 保護者調査.....	6
(1) 世帯・保護者のこと.....	6
(2) 健康状態.....	13
(3) 子どものかわりに関すること.....	25
(4) 子どもの将来のこと.....	51
(5) 保護者の仕事のこと等.....	58
(6) 世帯のこと・生活に関すること.....	72
(7) 教育・子育て支援に関すること.....	92
3. 子ども本人調査.....	111
(1) 子ども本人のこと.....	111
(2) 食事や健康のこと.....	115
(3) ふだんの生活に関すること.....	129
(4) 学校や勉強のこと.....	163
(5) 友だちのこと.....	177
(6) 将来や「夢」に関すること.....	184
(7) ふだん考えていること.....	188

付属資料 調査票



# 1. 調査概要

## (1) 調査の概要について

子どもの貧困は、単なる経済的困窮だけにとどまらず、様々な要因が複合的につながることと世代間の貧困の連鎖を招いていると言われていたことから、子どもの貧困の実態を多面的に把握するため、県内の小学生や中学生の子どものいる家庭を対象に、生活困難度、教育の機会均等、健やかな成育環境、支援制度の利用意向等に係る実態調査を実施した。

調査対象	県内に在住の小学校5年生(2,489人)とその保護者(2,489人)、中学校2年生(2,698人)とその保護者(2,698人) 合計 5,187世帯 10,374人
抽出方法	住民基本台帳により無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成30年11月9日から12月7日まで
有効回答数	子ども本人2,642人(50.9%)、保護者2,683人(51.7%)

## (2) 生活困難度について

### ① 本調査における「生活困難度」の取扱い

本調査では、他都県（東京都、広島県、長野県）の先行調査を参考に、所得の状況だけでなく、家計の逼迫、子どもの体験や所有物の欠如について着目し、それらの回答状況を用いて子どものいる家庭の「生活困難度」を分類した。

A 低所得	調査項目で把握した、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入による可処分所得+児童手当等の支給額等)を世帯人数の平方根で割って調整した所得)が、国民生活調査の貧困線の基準を下回る世帯とした。ただし、低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法等の違いがあるため、厚生労働省発表の子どもの貧困率と比較できるものではない。
B 家計の逼迫	生活費に関する質問7項目について、経済的な理由で払えなかった、または買えなかったことが1つ以上あると答えた世帯とした。 ( ①電話料金 ②電気料金 ③ ガス料金 ④水道料金 ⑤家賃 ⑥食料 ⑦衣類 )
C 子どもの体験や所有物の欠如	子どもの体験や所有物などに関する質問15項目のうち、経済的な理由で「していない」、金銭的な理由で「ない」など欠如する項目が3つ以上あると答えた世帯とした。 ( ①海水浴に行く ②博物館・科学館・美術館などに行く ③キャンプやバーベキューに行く ④スポーツ観戦や劇場に行く ⑤遊園地やテーマパークに行く ⑥毎月お小遣いを渡す ⑦毎年新しい洋服・靴を買う ⑧習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる ⑨学習塾に通わせるまたは家庭教師に来てもらう ⑩お誕生日のお祝いをする ⑪1年に1回くらい家族旅行に行く ⑫クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる ⑬子どもの年齢に合った本 ⑭子ども用のスポーツ用品・おもちゃ ⑮子どもが自宅で宿題をすることができる場所 )

## ② 生活困難度による家庭の分類

前述の「A 低所得」「B 家計の逼迫」「C 子どもの体験や所有物の欠如」の3つの要素の回答状況により、家庭を次のように分類した。

A B Cで2つ以上の要素に該当=**困窮家庭**

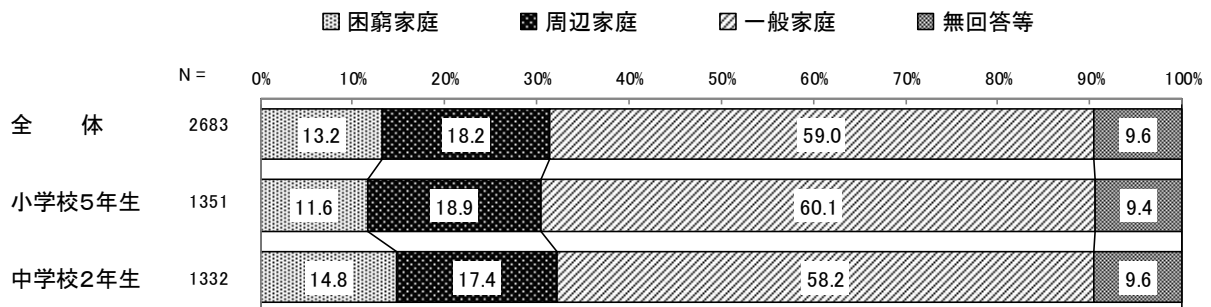
1つの要素に該当=**周辺家庭**

該当なし=**一般家庭** (無回答等により分類できないものは除く。)

困窮家庭	2つ以上の要素に該当
周辺家庭	いずれか1つの要素に該当
一般家庭	いずれの要素にも該当しない

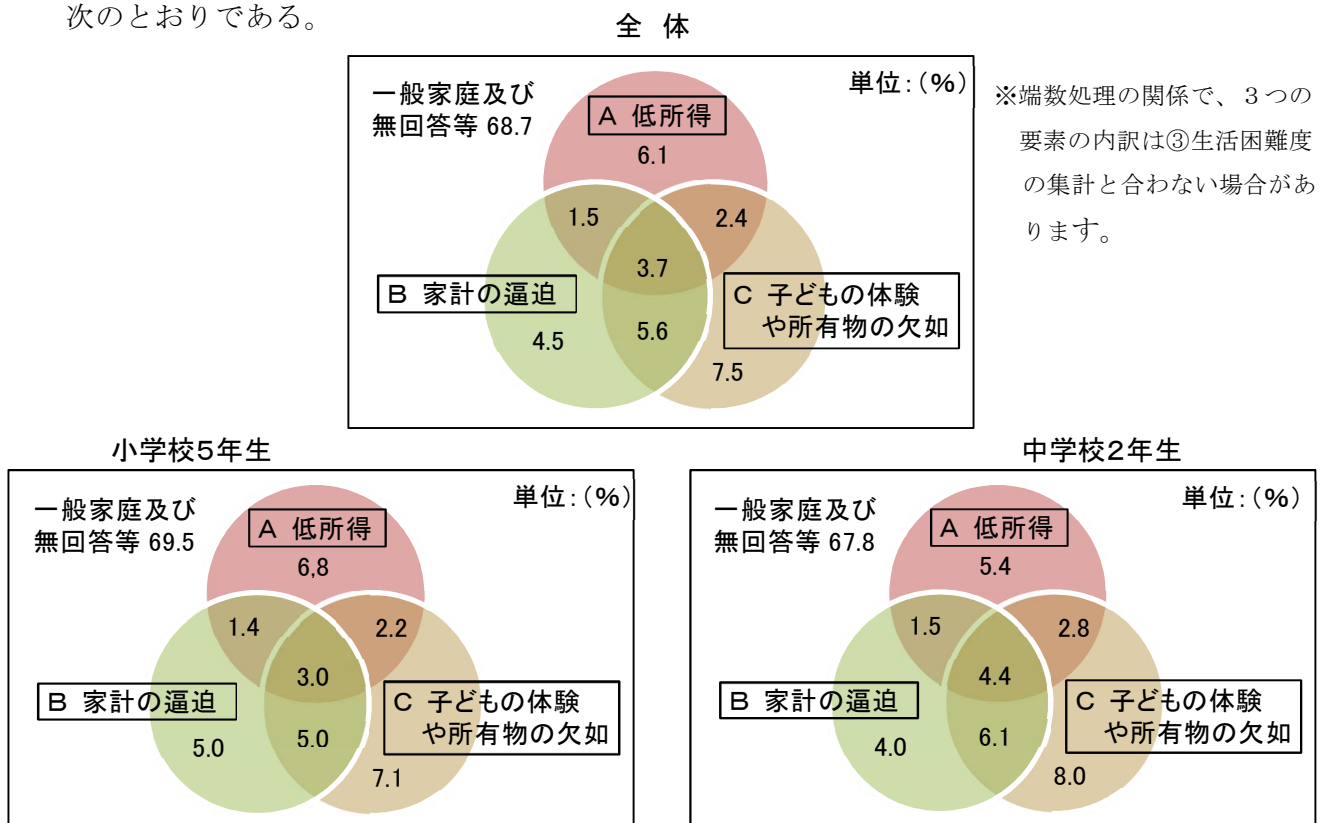
## ③ 生活困難度

前述のとおり生活困難状況を整理すると、回答者全体に占める困窮家庭は13.2%、周辺家庭は18.2%、学年別では小学5年生の困窮家庭は11.6%、周辺家庭は18.9%、中学校2年生の困窮家庭は14.8%、周辺家庭は17.4%である。



## ④ 3つの要素の内訳

「A 低所得」「B 家計の逼迫」「C 子どもの体験や所有物の欠如」の3つの要素の内訳は次のとおりである。



「子どもの体験や所有物の欠如」に該当する者は、全体で計 19.3%、小学校 5 年生で計 17.2%、中学校 2 年生で計 21.3%と、比較的割合が高い結果となっている。

	子どもの体験や所有物の欠如	
	該当する	該当しない
全体	19.3%	80.7%
小学校 5 年生	17.2%	82.8%
中学校 2 年生	21.3%	78.7%

その要因について、「子どもの体験や所有物の欠如」について調査した 15 項目（問 11、問 12、問 26 の一部）の集計結果を分析したところ、「保護者票 問 12D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」の結果において、「していない」が、小学校 5 年生で 72.9%、中学校 2 年生で 63.2%、一般家庭においても小学校 5 年生で 66.8%、中学校 2 年生で 53.7% と高い割合となっており、本県においては生活困難状況に関わらず学習塾（家庭教師）は利用していない子どもが多いということが確認された。

これは、本県の地理的な事情と、特に町村部においては学習塾が少ないといった地域性によるものと考えられる。

参考までに、子どもの体験や所有物の欠如に係る調査項目について、学習塾を除く 14 項目とした場合の集計結果については次のとおりである。

#### <参考>

子どもの体験や所有物の欠如に係る調査項目を学習塾に係る項目を除いた 14 項目にした場合の集計結果

	子どもの体験や所有物の欠如	
	該当する	該当しない
全体	13.9%	86.1%
小学校 5 年生	11.8%	88.2%
中学校 2 年生	16.1%	83.9%

### (3) 報告書の読み方について

各グラフは、設問ごとに単一回答を帯グラフで、複数回答を棒グラフで示している。

生活困難度別のグラフの子ども票数は、保護者票と紐づけされた件数である。

生活困難度別の全体のグラフについては、子ども票は保護者票と紐づけされた件数を総数としており、保護者票は有効回答数を総数としている。

困窮家庭、周辺家庭、一般家庭別のグラフについては、無回答等を除いているため、困窮家庭、周辺家庭、一般家庭の総数の合計と、全体の総数は一致しない。

世帯別のグラフについては、無回答等を除いているため、ふたり親（二世帯）、ふたり親（三世帯）、ひとり親（二世帯）、ひとり親（三世帯）の総数の合計と、全体の総数は一致しない。

#### ① 各設問とグラフの回答総数について

		総数		備考
		子ども票	保護者票	
学年別	全体	2,642件	2,683件	調査票ごとの有効回答数
	小学5年生	1,321件	1,351件	
	中学2年生	1,321件	1,332件	
生活困難度別	全体	2,603件	2,683件	子ども票は保護者票と紐づけされた件数
	困窮家庭	335件	354件	
	周辺家庭	470件	487件	
	一般家庭	1,549件	1,587件	
	無回答等	249件	255件	生活困難度を判断するための調査項目が無回答のため分類できない件数 (グラフには表示していない)
世帯別	ふたり親(二世帯)	1,566件	1,615件 (49件)	子ども票と保護者票の紐づけされた件数 ( )内の件数は子どもの学年別に分類できない保護者票
	ふたり親(三世帯)	734件	756件 (22件)	
	ひとり親(二世帯)	154件	159件 (5件)	
	ひとり親(三世帯)	142件	146件 (4件)	
		無回答等	46件	7件
ふたり親世帯の最終学歴別	高い層	38件	41件	ふたり親世帯(2,300件)のうち父母の最終学歴の回答があった件数 ※分け方の詳細は5ページを参照
	やや高い層	710件	731件	
	やや低い層	983件	1,017件	
	低い層	483件	491件	
		無回答等	86件	20件



## ② 保護者の最終学歴の集計について

保護者の最終学歴別区分は、ふたり親世帯の最終学歴により区分しているため、集計にひとり親世帯は含まれていない。

保護者の最終学歴別の区分の考え方は次のとおりである。

		父親			
		中学	高校	高専・短大・ 専門	大学・大学院
母親	中学	低い	低い	やや低い	やや低い
	高校	低い	やや低い	やや高い	やや高い
	高専・短大・ 専門	やや低い	やや高い	やや高い	高い
	大学・大学院	やや低い	やや高い	高い	高い

## ③ 保護者の抗うつ傾向の集計について

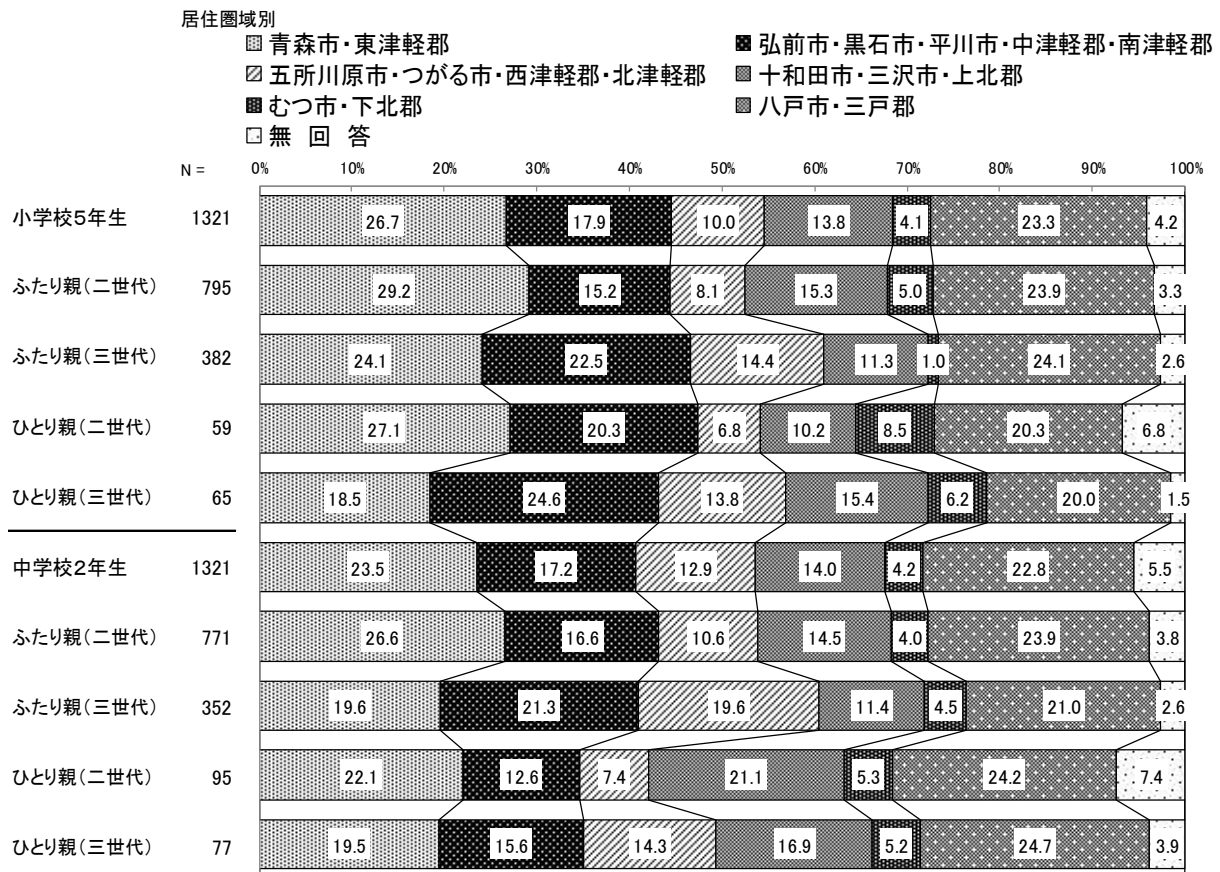
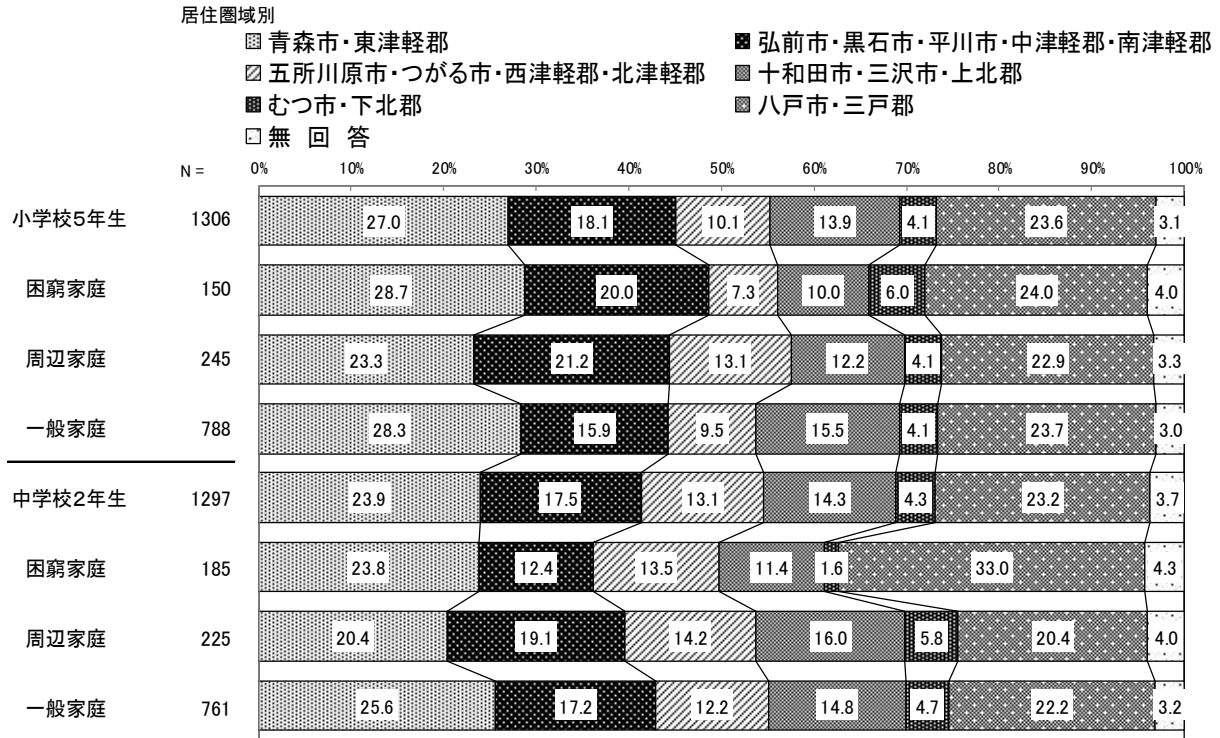
抗うつ傾向別では、過去 30 日の間での心の健康状況（以下の 6 項目）の回答状況を 1～5 点で点数化し、それぞれ「心理的ストレス反応相当（5 点以上）」、「気分・不安障害相当（9 点以上 10 点以上）」、重症精神障害相当（13 点以上）に分類している。

抗うつ傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 神経過敏に感じましたか</li> <li>② 絶望的だと感じましたか</li> <li>③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか</li> <li>④ 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか</li> <li>⑤ 何をするのも骨折りだと感じましたか</li> <li>⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか</li> </ul>
-------	---

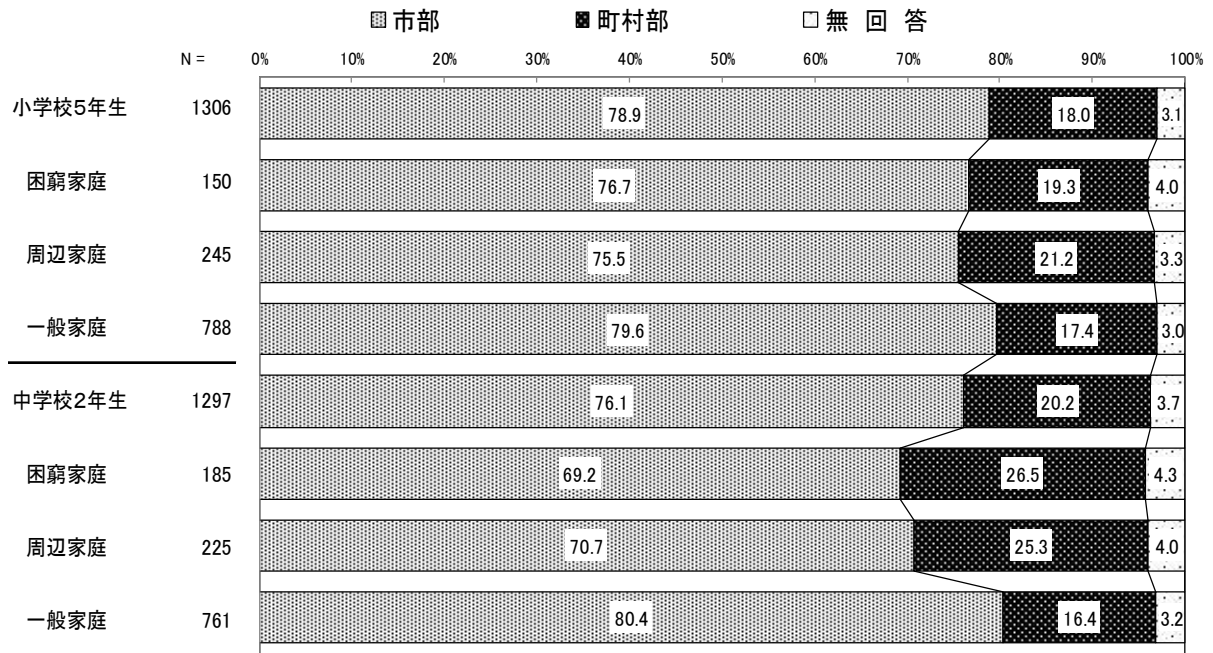
## 2. 保護者調査

### (1) 世帯・保護者のこと

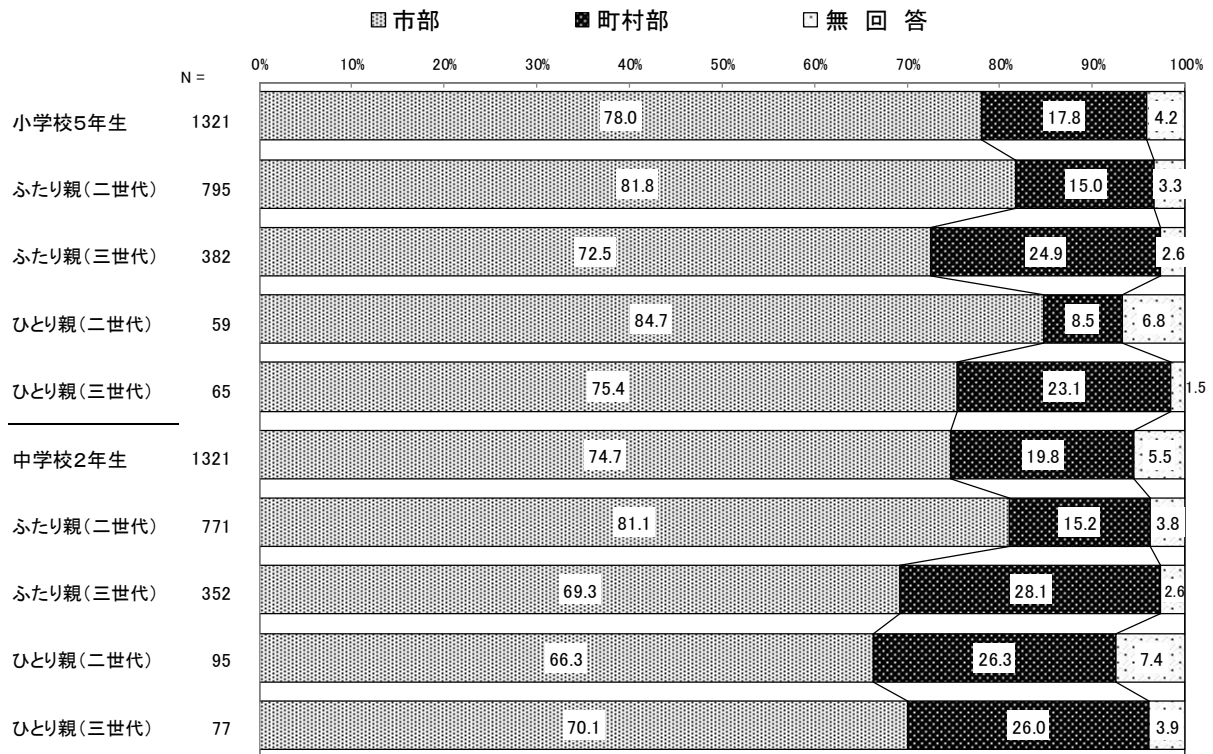
問1 お住まいの市町村名を教えてください。



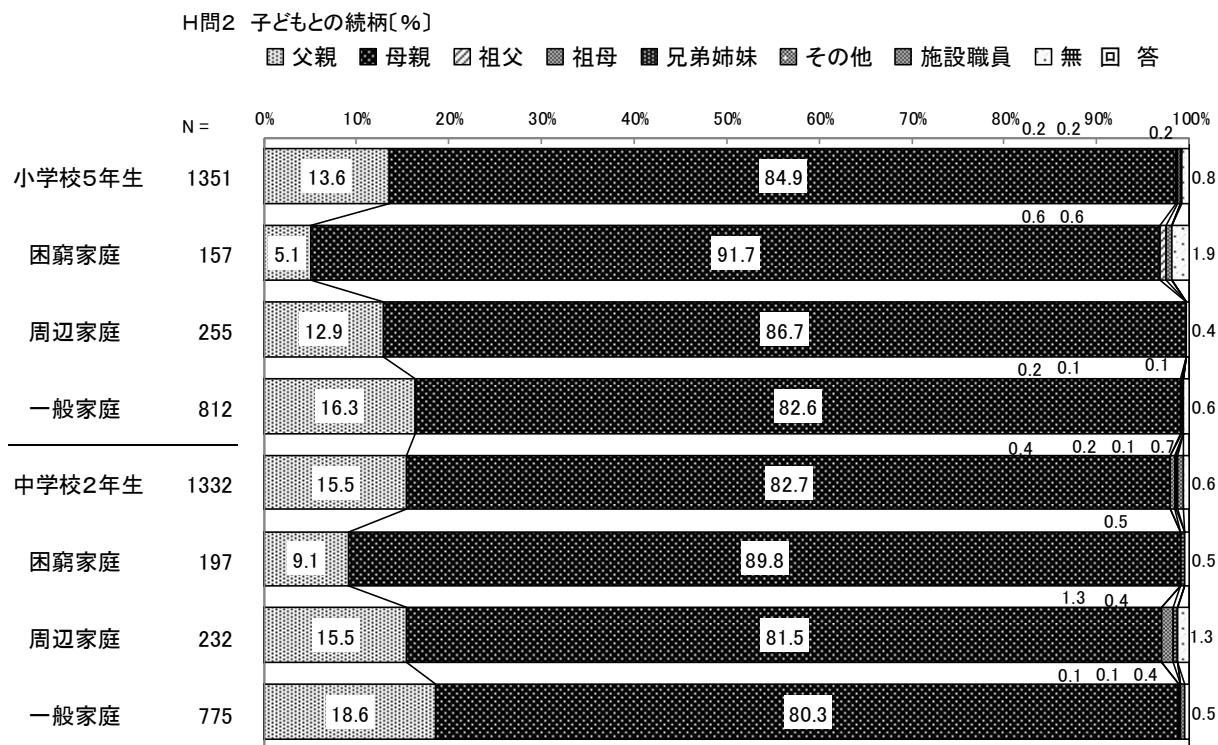
居住市部・町村部別



居住市部・町村部別



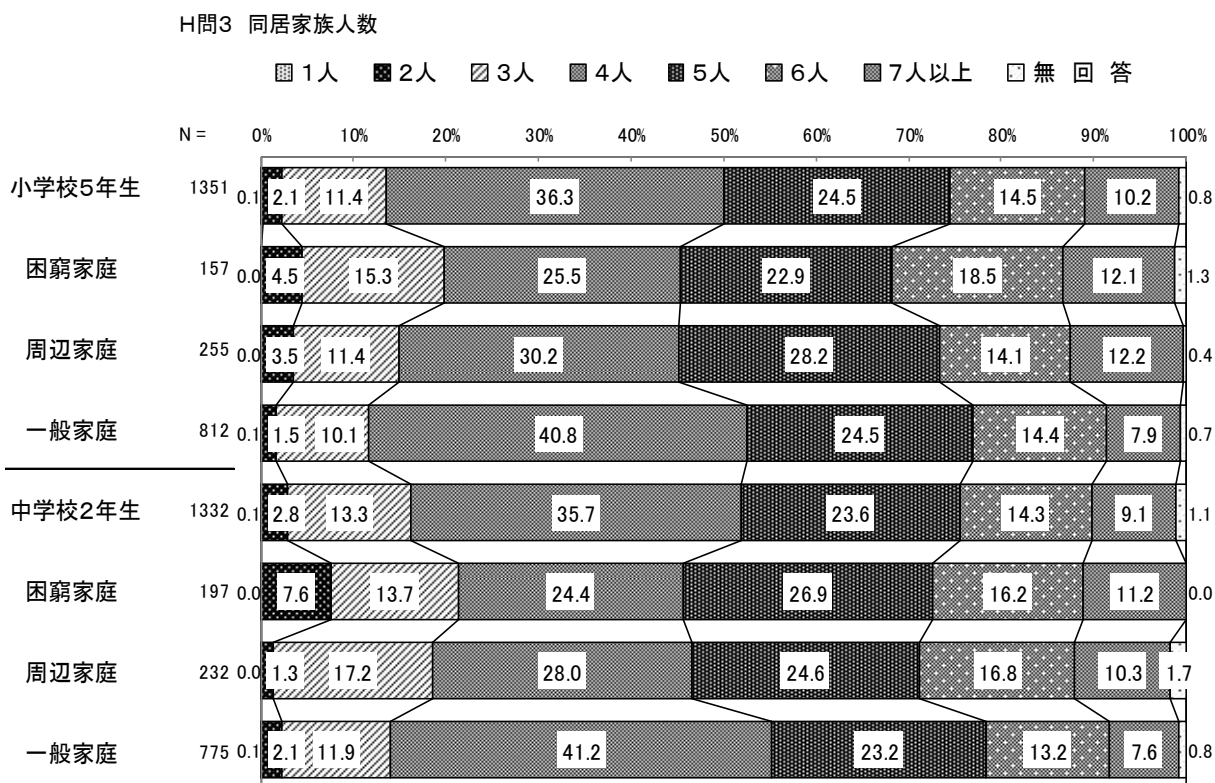
問2 お子さんとあなた(回答者)との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続柄で、お答えください。



	H問2 子どもとの続柄[%]							
	父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答
小学生5年生	13.6	84.9	0.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.8
困窮家庭	5.1	91.7	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	1.9
周辺家庭	12.9	86.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
一般家庭	16.3	82.6	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1	0.6
中学生2年生	15.5	82.7	0.0	0.4	0.2	0.1	0.7	0.6
困窮家庭	9.1	89.8	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5
周辺家庭	15.5	81.5	0.0	1.3	0.4	0.0	0.0	1.3
一般家庭	18.6	80.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.4	0.5

問3 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください（あなたとお子さんも含む）。単身赴任しているご家族も含めてください。

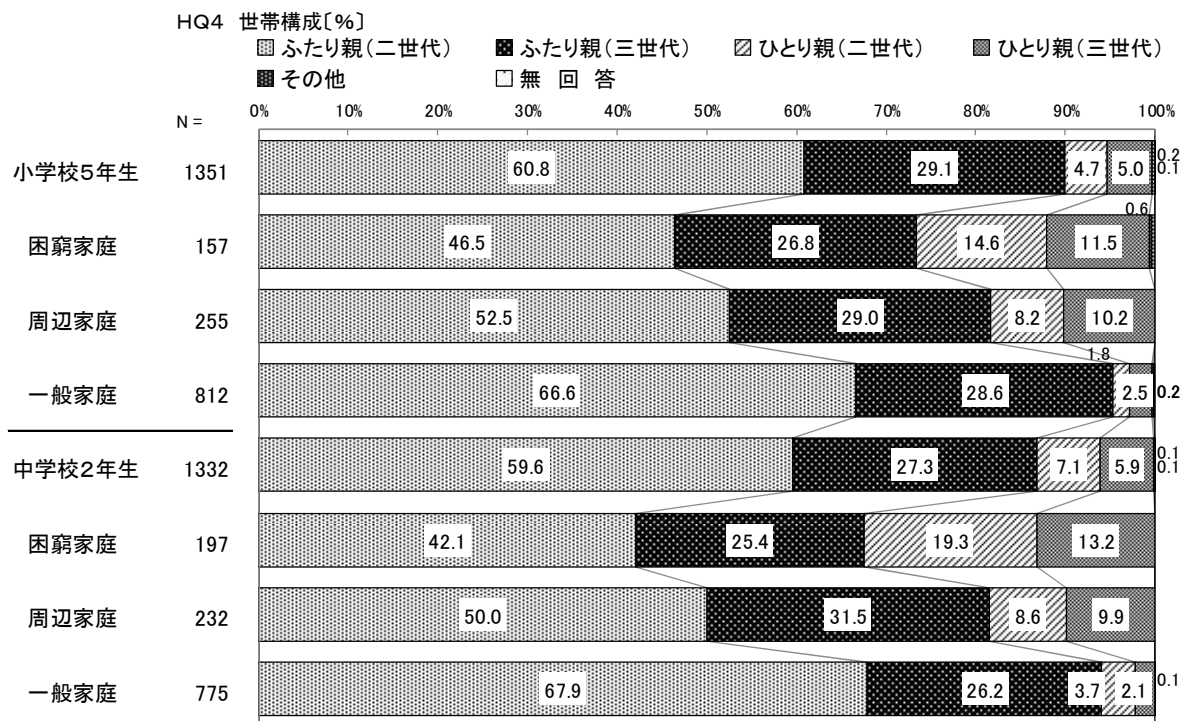
各学年ともに一般家庭は「4人」が41%前後と多い。各学年の困窮家庭は「4人」が少なく、「2人」がやや多い。



※一部施設入所者の回答を含む

問4 お子さんと同居しているご家族の方は、どなたですか。世帯構成も教えてください。

各学年ともに一般家庭は「ふたり親」が90%を超え、生活困難状況に伴い「ひとり親」の割合が高くなっており、困窮家庭の小学校5年生で26.1%、中学校2年生で32.5%が「ひとり親」世帯である。



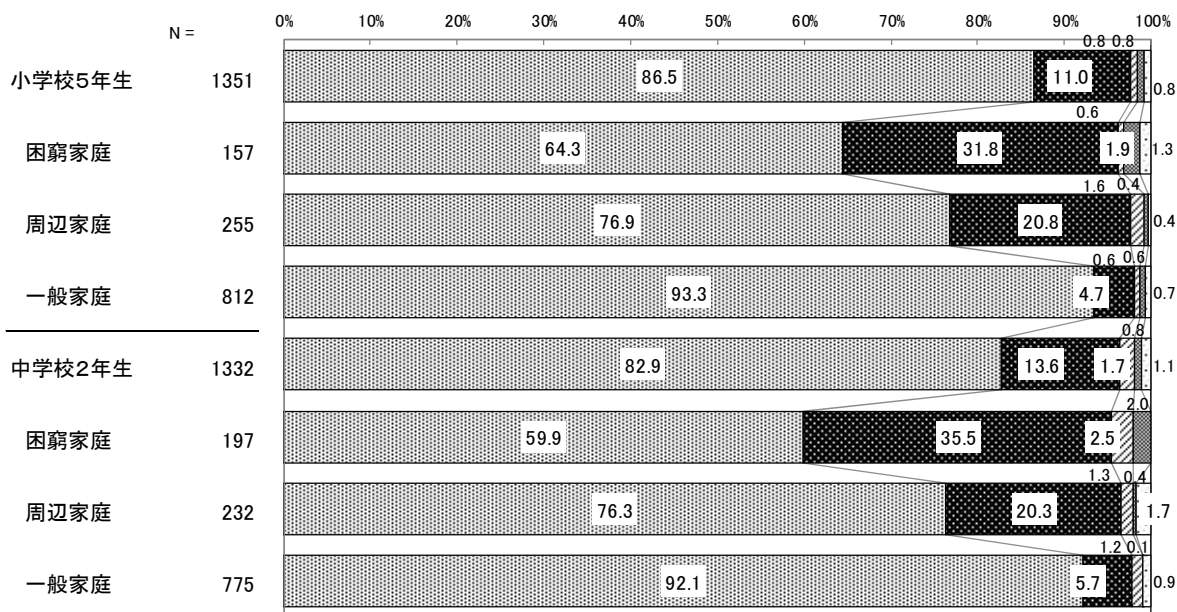
	HQ4 世帯構成[%]					
	ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)	その他	無回答
小学生5年生	60.8	29.1	4.7	5.0	0.2	0.1
困窮家庭	46.5	26.8	14.6	11.5	0.6	0.0
周辺家庭	52.5	29.0	8.2	10.2	0.0	0.0
一般家庭	66.6	28.6	1.8	2.5	0.2	0.2
中学生2年生	59.6	27.3	7.1	5.9	0.1	0.1
困窮家庭	42.1	25.4	19.3	13.2	0.0	0.0
周辺家庭	50.0	31.5	8.6	9.9	0.0	0.0
一般家庭	67.9	26.2	3.7	2.1	0.1	0.0

問5 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。

学年・生活困難度別では、各学年の困窮家庭は「結婚している（事実婚を含む）」がそれぞれ 64.3%、59.9%と特に少なく、周辺家庭も 76.9%、76.3%と少ない一方で、「離婚（別居中を含む）」は困窮家庭で 30%強、周辺家庭で約 20%と多い。

H問5 現在のあなたの婚姻状況[%]

■ 結婚している(事実婚を含む) ■ 離婚(別居中を含む) ▨ 死別 ■ 未婚・非婚 □ 無回答



	H問5 現在のあなたの婚姻状況[%]				
	結婚している(事実婚を含む)	離婚(別居中を含む)	死別	未婚・非婚	無回答
小学生5年生	86.5	11.0	0.8	0.8	0.8
困窮家庭	64.3	31.8	0.6	1.9	1.3
周辺家庭	76.9	20.8	1.6	0.4	0.4
一般家庭	93.3	4.7	0.6	0.6	0.7
中学生2年生	82.9	13.6	1.7	0.8	1.1
困窮家庭	59.9	35.5	2.5	2.0	0.0
周辺家庭	76.3	20.3	1.3	0.4	1.7
一般家庭	92.1	5.7	1.2	0.1	0.9

問6 お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか。

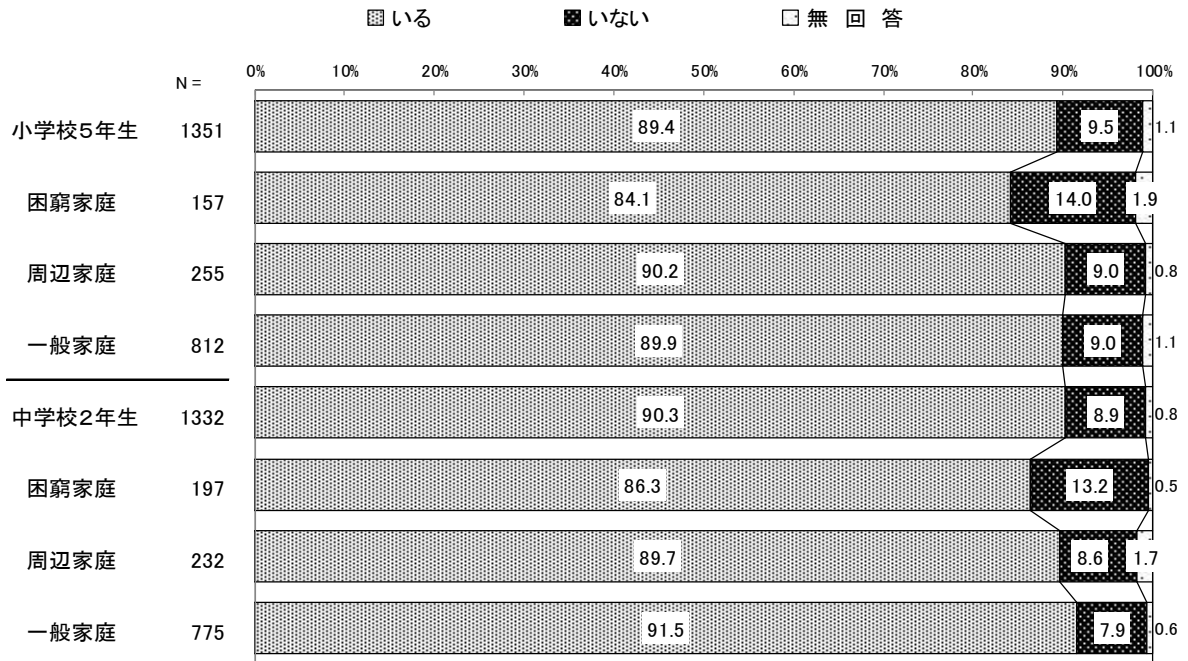
学年・生活困難度別では、各学年の困窮家庭は「いない」が 13%を超えてやや多い。

学年・世帯構成別では、中学校 2 年生のひとり親（二世帯）世帯は「いない」が 16.8%と多い。

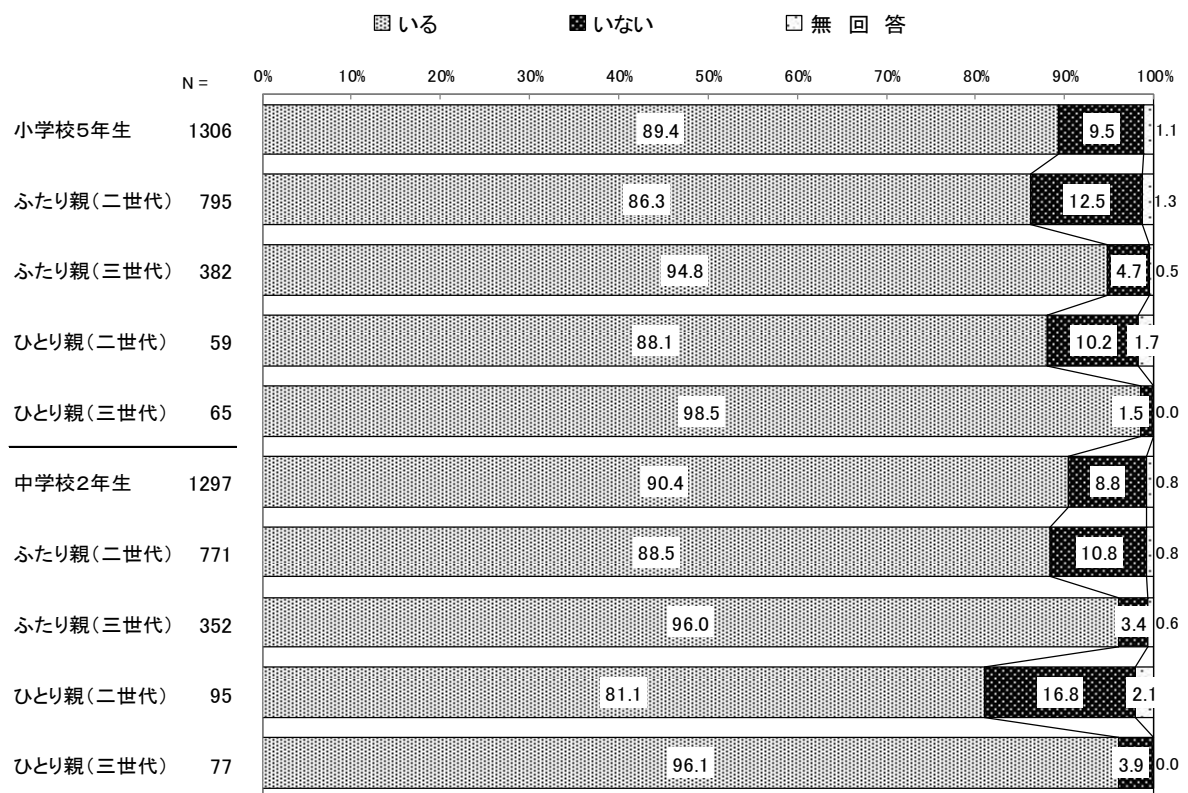
居住市部・町村部別では、あまり違いはみられない。



H問6 子どもの病気の時や用事の時等に頼れる親族や友人[%]



H問6 子どもの病気の時や用事の時等に頼れる親族や友人[%]



H問6 子どもの病気の時や用事の時等に頼れる親族や友人[%] × H問1 居住市部・町村部別

